文化

独創的軍縮案 今に問う
故青木雅彦さんの遺稿集完成

一昨年急逝した反戦活動家青木雅彦さんの著作集を、ともに活動した仲間たちが「ハーフオプション　軍事費を平分に！―市民からの提言―」（草莽社）にまとめた。軍事費を半減させ、削減分を国際平和に活用する独創的な軍縮案を提言、斬新なアイデアとユーモアで平和運動を展開した一人の活動家の軌跡をたどっている。（河村亮）

青木雅彦著「ハーフオプション」

出版した青木雅彦さんの著作集を手に、思い出を語る出版委員会のメンバー（京都市上京区）

太平洋での米軍統合実働演習に反対する海上行動に参加した青木さん（1989年8月、横須賀港。出版委員会提供）

「ハーフオプション」反戦活動の軌跡たどる

兵庫県篠山市出身の青木さんは関西学院大を経て1978年、京都大理学部に入学。83年、学生有志や市民で「反戦ドタバタ会議」を結成し、より開かれた反戦運動、平和イベントを企画。同年、「トマホーク阻止京都連絡会」を組織し、各地の運動と連携した。

とりわけ91年、東京で開かれた平和集会で発表した提言「ハーフオプション」は全国的な論議を呼び、脚光を浴びた。削減した軍事費を原資に、災害救助、難民対策、貧困対策、環境保護の基金として活用する提案だ。「100万回、平和を唱えても現実は変わらない。実現可能な独自の構想だった」。「トマホーク」以来25年間ともに活動した元教諭足立修行さん（62）＝宇治市＝は振り返る。

青木さんの持ち味は行動力と柔軟さ、と仲間は声をそろえる。例えば、92年6月に国会でPKO法案成立で自衛隊の海外派遣が決まると、「自衛官人権ホットライン」を設置。「政治的な立場はなく、啓蒙しない反戦運動。隊員の揺れる思いを受け止める。一貫した立場だった」。賛同した哲学者鶴見俊輔さんも呼びかけ人に加わった。また情報は万人が共有すべきとの信念で作成したメーリングリストは、市民運動家やジャーナリスト、政治家をつないだ。

青木さんは94年、篠山に戻って活動していたが、08年3月逝去した。52歳だった。仲間が開いたしのぶ会で映像ディレクター中井邦彦さん（50）＝左京区＝が、青木さんの生きた証に「本をつくろう」と提案し、足立さんを代表に計11人の出版委員が1年かけて遺稿集を実現させた。

同集では、青木さんが反戦ドタバタ会議の機関紙「井戸端通信」に連載した、ハーフオプションの具体案、運動、実践編などを紹介するほか、他の機関誌への寄稿や講演を収録。軍事や外交に対する考察では、文理問わず語学もたけた青木さんらしく、防衛庁の資料を鋭く分析、各国の核戦力を緻密に解き明かしている。ほかに、社会問題や時代への鋭い批評、皮肉や諧謔を交えた解説「悪魔の時事用語辞典」まで幅広い。序文は鶴見さんが寄せた。

足立さんは「彼が投げかけた問いは現代に通じる。今の世にこそ問いたい」と力を込める。1995円（税込み）。問い合わせは出版委員会☎0774（33）0851へ。